

こころ

滝原すずめ会

野菜栽培体験道場!



赤い羽根共同募金 地域福祉活動推進助成事業

皆様から寄せられた温かい共同募金を基に地域の様々な活動へ助成しました。(関連記事:P7)

都賀地域婦人会 認知予防・生きがい事業



平成25年度 小・中学校児童・生徒

福祉作文

美郷町内小・中学校では、福祉活動の推進に取り組んでおられます。
町社会福祉協議会では、事業の一環として福祉作文の募集をしました。色々な体験を通しての素直な作品の応募を沢山いただきました。
審査の結果、次の方々が入賞されました。その中で最優秀の作品を紹介いたします。

賞	学校名	学年	氏名
●小学校低学年の部			
最優秀賞	大和小	1	玉岡 知恵子
優秀賞	邑智小	2	波多野 準也
佳作	大和小	2	高橋 咲妃
佳作	邑智小	1	中村 心緑
佳作	邑智小	2	彦田 壮真
佳作	邑智小	1	日野原 楓
●小学校中学年の部			
最優秀賞	邑智小	4	矢渡 さくら
優秀賞	邑智小	3	湯浅 あゆみ
佳作	大和小	3	大島 脩佑
佳作	大和小	4	黒川 温美
佳作	邑智小	3	西原 淳心
佳作	邑智小	4	藤田 鈴美
●小学校高学年の部			
最優秀賞	邑智小	6	藤田 このみ
優秀賞	邑智小	6	山根 和
佳作	大和小	5	大畑 未夢
佳作	邑智小	5	木村 太郎
佳作	邑智小	5	中村 響
佳作	大和小	6	藤原 美和

賞	学校名	学年	氏名
●中学校1年生の部			
最優秀賞	邑智中	1	森田 鈴香
優秀賞	大和中	1	中原 菜南子
佳作	大和中	1	石田 貴子
佳作	邑智中	1	神崎 莉奈
●中学校2年生の部			
最優秀賞	邑智中	2	菅原 いおり
優秀賞	邑智中	2	横田 陽
佳作	邑智中	2	木村 華
佳作	邑智中	2	波多野 涼香
佳作	大和中	2	藤田 遥
佳作	大和中	2	若木 亮佑
●中学校3年生の部			
最優秀賞	大和中	3	櫻井 一寛
優秀賞	邑智中	3	安東 七海
佳作	邑智中	3	石田 彩由香
佳作	大和中	3	井原 舞華
佳作	邑智中	3	増本 佳歩



小学校低学年の部・最優秀賞

わたしのおばあちゃん

大和小学校 1年 玉岡 知恵子

わたしには、いっしょにいらしているおばあちゃんがあります。おばあちゃんは、なんさいかわからないけれど、としをとっています。いまは、はたけでやさいをつくったり、いえのことをしたりしています。

おばあちゃんは、足がわるいから、あるくときにいたかったり、たちあがるのがたいへんだったりします。そんなときは、いつもわたしがおばあちゃんのつえがわりになってあげます。おばあちゃんに、かたをかしてあげるので。

きっと、おばあちゃんは、わかいときにいっぱいはたらいて、がんばったから、としをとって足がいたいんだとおもいます。

おばあちゃんがいたそうにしていると、かわいそうだなとおもいます。わたしは、ほかにもかたたたきをしてあげたり、せ中にキンカンをぬってあげたりします。はたけしごとをてつだったり、おもいにもつをもってあげ

たりもします。
おばあちゃんは、にっこりえがおで、「ちえちゃん、ありがとう。」といつもいってくれます。わたしも、うれしくなって、えがおになります。

このまえ、おばあちゃんといっしょに、大こんのかわむきをしました。おばあちゃんとおしゃべりしながらするから、たのしいです。

おばあちゃんのすきなところは、やさしいところです。いつもにこにこして、わたしのことをかわいがってくれます。だから、わたしも、おばあちゃんがよこぶことをしてあげたいとおもいます。

わたしは、おばあちゃんにたのまれたことは、いやといたことはありません。これからも、おばあちゃんのために、なんでもしてあげたいとおもいます。

そして、もっともっとおばあちゃんのえがおを見たいです。大すきなわたしのおばあちゃん、なが生きしてね。ずっと、げんきでいてね。



小学校中学年の部・最優秀賞

お年寄りの方との交流

邑智小学校 4年 矢渡 さくら

私達は9月と10月の2回、吾郷センターと双葉園、やすらぎの里に行ってお交流をしました。そこで、お年寄りの方や、働いておられるスタッフの気持ちや接し方について勉強しました。

はじめに、お世話しておられる様子を見学したり、どんな気持ちで働いておられるかについて質問したりしました。

スタッフの方は、お年寄りの方が安心できるように、できるだけ努力しておられるのが分かりました。例えば、食事です。かむのがむずかしい方には、ミキサー食を作っておられました。

また、食事にばいきんが入らないように、料理を作る人しか入らないようにしておられました。ほかにも、お年寄りの方がリフトに乗られる時に、せなかに手を当てて、「大丈夫ですよ。」と安心できるように声をかけておられました。

スタッフの方が、お年寄りの方にとってもやさしく接しておられるのを見て、お年寄りの方のことを考えて、大切に思っておられることが分かりました。中には、お年寄りの方が大好きで、この仕事をやっておられる方もおられました。私は、これならお年寄りの方も安心だと思いました。

その後に、みなさんとふれあいの活動をしました。私達がじゅんぴした遊びをいっしょにしました。私は、おり紙のチームでしたが、私が折ったつるを、お年寄りの方は、「上手だね。」とほめてくださいました。お年寄りの方も上手に折っておられて、すごいなと思いました。やってよかったと思いました。

美郷町には、こうした介護施設がいくつかあります。見学してみて、お世話は大変だと思うけど、お年寄りの方はとても助かっておられることが分かりました。そして、働いておられる方も、一生けん命仕事しておられることが分かりました。



小学校高学年の部・最優秀賞

地域とのつながり

邑智小学校 6年 藤田 このみ

私はこの六年間いつも心がけていることがあります。それは地域でのあいさつです。このあいさつを続けることで、私は地域の人たちとつながっていった気がします。

いつも私達がバス停に行くと、青パトの方がいて、毎日見守ってくれています。バス停に着くと、私は大きな声で「おはようございます。」とあいさつをします。

そうすると青パトの方が、私より大きな声であいさつをするので、いつもどっちが声の大きいお姉ちゃんにんさしてもらっています。毎日の同じやり取りだけど、心がほかほかし、元気が出てきます。

そして青パトの方と色々な話もできるようになりました。バス停に一人でいてさみしい気持ちの時、青パトの方が学校の様子や最近あったことなど話をしてくれます。さみしい気持ちもなくなり、心が温かくなります。そのおかげで私は、いつもあたたかい気持ちで学校に通うことができます。

学校から地域に帰ると、青パトの方はもういません。でも、地域の方が「お帰り。」「遅かったね。」「ごろうさん。」などとたくさんの声をかけてくれます。私もうれしくなって自然と大きな声で「帰りました。」と言うことができます。これもあいさつからつながりができたか

らだと思います。
あいさつは毎日続くから、めんどうくさいとか一日くらいいいかなと思うこともあります。嫌なことがあってあいさつをする気分じゃないときもあります。でも、一言で自分の気持ちを伝えたり、相手のことが分かったり、その人とつながっていけるかけ橋なのだと思います、続けていけます。

これからも、たくさんの人に自分からあいさつをして、気持ちを伝え、しっかりつながっていきたいと思います。みんながあいさつをしてつながっていける、そんな地域になったらいいと思います。





中学校1年生の部・最優秀賞

将来の夢

「介護福祉士になりたい。」

私がそう思ったのは、小学校六年生の時です。六年生の時、総合的な学習で、福祉施設である、双葉園と吾郷センターに行きました。

今まで、お年よりの方というのは、なんか話しくいなぁ、などというイメージが強かったのですが、施設でお年よりの方と話してみると、とても明るく、笑顔で話して下さったので、こっちまで笑顔になり色々な話をすることができました。

施設で働くみなさんがお年よりの方にやっている事、そのために使用する機械を見せてもらった時には、驚きの連続でした。入浴の介助をする時には、車イスの方や寝たきりの方を浴槽に移動させるのに機械を使います。

人の手でやって、お年よりの方に怪我をさせてしまったりはいけなし、体重の重い方もおられるので、そういう方を移動させるにも、機械を使います。

双葉園や吾郷センターに行き、私にとって一番心に

邑智中学校 1年 森田 鈴香

残っていることは、施設で働く方々の表情です。男性も女性も常に笑顔でお年よりの方と接しておられました。介護福祉士というのは、とても大変な仕事で、体力が必要になってきます。

男の人でも大変な仕事なのに、女の人は男の人に負けないくらい頑張っておられました。また、働いておられる方々が笑顔だと、お年よりの方も笑顔になり、見学していた私達まで笑顔になれました。

私はそんな職員の方々の姿を見て、とってもカッコいいな、と思いました。そして、すごいな、とも思いました。車イスの方、寝たきりの方、なかなか言う事を聞いてくれない方もおられます。でも、そんな方々と笑顔で、いやな顔一つしないで接しておられる職員の方々を見て、私は「介護福祉士になりたい。笑顔で明るい介護福祉士になる。」と心に決めました。私は将来、一生懸命勉強して、立派な介護福祉士になれるよう、頑張っていきたいです。



中学校2年生の部・最優秀賞

助け合ってなんだろう。

助け合ってなんだろう。美術の時間考えていました。美術で、助け合いについて絵を描くというので

私はすごく悩みました。結局私はその時間描くことができませんでした。ペンをにぎることさえもできなかったのです。それからずっと考えていました。

そんなある日のことでした。コンビニに行った時のことです。入り口に若い男の人がいました。そこにおじいちゃんとおばあちゃんが来たのです。私は勝手に男の人はきっと何もしないだろうと思っていました。でもその男の人はにっこりと笑顔を見せて、ドアを開け、「どうぞ」と言ったのです。

そのおじいちゃん達は、「ありがとう」とすごく優しい笑顔を見せたのです。私はその場面を見て、人は見た目じゃないな。人はちゃんと助け合いの心をもっているんだなと思いました。勝手に見た目だけで決めてしまって本当に失礼だったなと思いました。今でも、おじいちゃん達の笑顔が忘れられません。ああこれが助け合いというものなんだと思いました。

助け合いはきっと「これ」というものはないんじゃないかなと最近感じます。人が助け合いと思えば、心が温かくなれば、人に感謝することができたなら、それは助け合いなのかなと思います。

お年寄りだったから、男の人は親切したんじゃないかと、そういう心をもっているというところに感動しました。私も人が来たら、後ろにいたら、ドアを開けるようにしています。開けてくれた時には、お礼を言っています。そんな時、自然と笑顔が出るし、心が温かくなります。いいなと思います。

助け合ってなんだろう。まだ正直、ぱっとしていません。でも、助け合って私の身近な所にあるのかなと思います。人と人が支え合う。そういうのが助け合いなのかなと思います。友達でも、家族でも、ちゃんと助け合ってあるんだなと思いました。



中学校3年生の部・最優秀賞

プルタブ車イス

今年生徒会で集めていたプルタブを車イスにすることができました。

このプルタブは生徒会で12年前から集めていたもので合計で1340キロ集まり車イスは地域の老人ホームに寄贈しました。

今回集めたプルタブは学校の生徒だけでなく地域の方にも協力してもらい車イスと交換することができました。この車イスは地域の人達の思いが集まったものだと感じました。私はこんな風に多くの人の思いが一つになり何かを達成することは大変だけど、とても良いことだと思います。

車イスを渡したのは私達生徒会でしたが、その車イスのむこうの先輩や地域の方など顔は見えない多くの人の思いがありその温かさを感じ自分もそんな温かい気持ちになりました。

福祉作文の審査を終えて

「福祉」という言葉を広辞苑で調べてみると、『幸福。公的扶助による生活の安定。』と記されています。福祉作文コンクールは、作品応募を通して、小中学生の皆さんに「福祉」への感心を高めてもらうのがねらいです。作文を書くという作業を通して毎日の生活を振り返り、自分の一日が家族や学校の友達・先生、さらには大勢の地域の方によって支えられていることに気付き、『自分のことばかり考えるのではなく、お互いを思いやる気持ちを持つことの大切さ』に気付いてほしいと思います。

平成25年度の福祉作文コンクールには、小学校から18点、中学校から15点の作品応募がありました。応募された児童・生徒の皆さん、本当にありがとうございました。

1月29日に福祉作文の審査会を開きましたが、今年は例年以上に、小学校を中心に優秀な作品がそろっていました。審査員の方から、次の感想をいただきました。

小学校低学年では、「心がほかほかした。」など、家族や友達とのふれ合いの様子が、温かい心から生まれるすてきな表現で描かれた作品が多い。まさに、福祉の原点と言えるものである。

小学校中・高学年の作品は、特にレベルが高かった。字も丁寧に書かれており、感心した。作品内容も、多岐にわたっている。

中学校の作品は、福祉施設を訪れた体験を基にした作品が多かった。さらに、色々な福祉活動に目を向けてほしい。

青パト隊の見回り活動や横断歩道での交通指導などに関わる地域の方との触れ合いを通して、挨拶や言葉遣い

大和中学校 3年 櫻井 一寛

このプルタブを車イスと交換するには計量したり別の物が入っていないか確かめないと送ることができません。大量のプルタブを送る作業は大変で時間がかかります。この作業をしていて私はめんどくさいと思うこともありましたが車イスを入所者の方に渡したときの笑顔を見たらやって良かったと思大変だったからこそ大きな成果を出せると思いました。

そして送るのが大変な量集まること自体すごいことだと思この地域の温かさを実感しました。

今回はプルタブを集め車イスに交換するということをして人を助けるというのは日ごろの小さな思いやりが重要だと思いました。小さなプルタブでも集まれば車イスになるのだから日ごろの思いやりが集まればよりよい社会をつくることができると思います。

の大切さに目を向けた作品が多い。子ども達が地域の方とふれ合う活動は、とても重要である。

地域医療に関する学習が、学校現場に取り入れられるようになった。美郷町出身の医大生や現職の看護師さんからお話を聞いたり、地域医療に貢献した人物を劇化したりといった授業が行われている。こういった学習や福祉施設訪問を通して看護師や介護福祉士になりたいという将来の夢を持つ子ども達が多くなっている。

応募された作文は、作品集にすべて収録しています。町内図書室に置いてありますので、多くの皆様にお読みいただき、作品集が美郷町の「温かい地域社会づくり」と「福祉の一層の進展」に資することになれば幸いです。

最後になりましたが、ご指導いただきました各校の先生方、また関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

(福祉作文審査員一同)

福祉作文審査委員

田邊 哲也	美郷町教育長
多田 房明	美郷町立小中学校校長会会長
野村 眞	美郷町民生児童委員協議会会長
安田 兼子	美郷町連合婦人会会長
渡利 哲彦	美郷町社会福祉協議会総務福祉委員会委員長
青木 一男	美郷町社会福祉協議会事業委員会委員長
渡邊 泰文	美郷町住民福祉課課長

老人クラブ連合会 第2回 ペタンク交流会

3月5日水曜日、浜原体育館・浜原隣保館を会場に会員71名の24チームでペタンク交流会を開催いたしました。

3人1組のトリプルスで、4チームずつ、6ブロックに分かれてリーグ戦を行いました。寒い体育館での試合でしたが、歓声や嘆声・拍手など会場中が終始、にぎやかな中、熱戦が繰り広げられました。

3試合、全勝したチームが3チームありました。
今回、初めて参加された方で「負けたけど、おもしろいなあ」と喜んでおられました。



平成25年度 日赤幼児安全法講習会

3月7日金曜日、保健福祉センターで参加者7名で日赤幼児安全法講習会を開催しました。講師は、日本赤十字社島根県支部河野操先生で、こどもに起こりやすい事故の予防と応急手当について実技を交えた講習をして頂きました。

初めに、予防について冊子や実例で説明を受けた後、木綿のハンカチやパンストを使っての応急処置と乳児の人形を使かった実技を講習しました。

1時間30分の予定でしたが、AEDの普及動画を見たり質問等で10分程度オーバーしましたが、皆さん最後まで熱心に講習を受けておられました。



職員紹介

■退職 (平成26年1月31日)
臨時職員
伍堂 由貴子 (都賀行)

■新任 (平成26年2月1日)



臨時職員
柳 幸 佐代子 (久喜原)

共同募金運動

多くの皆様から温かいご協力をいただきました。厚くお礼申し上げます。

一般募金 2,656,626円

- 戸別募金 1,510,000円
- 法人募金 569,000円
- 職域募金 91,669円
- その他の募金 54,026円
- 街頭募金 103,753円
- 学校募金 22,216円
- イベント募金 305,962円

本年度、皆様から寄せられた共同募金を島根県共同募金会へ送り、26年度、その寄付金の内約8割が助成事業として社会福祉協議会へ配分されます。共同募金助成事業では次のような事業を実施しております。

- 地区社協・地域団体への助成
- ひとり暮らし高齢者の研修
- 福祉作文事業
- 新生児お祝い事業
- 小中学校入卒お祝い事業
- 学校への福祉教育推進事業 など



歳末募金 949,700円



地域歳末募金につきましては、皆様から寄せられた寄付金を、今年度内に助成を受け、次のような事業を実施いたしました。
町内施設への訪問や町内の75歳以上のひとり暮らしの方のお宅へ、社協役員がソバとしめ縄を持って訪問させていただきました。また、小学校就学前の幼児の方を対象に、担当地域の民生児童委員よりクリスマスプレゼントをお届けしました。

美郷町地域福祉活動推進助成事業 助成団体募集!!

地域の皆様より温かいご協力をいただいている共同募金を財源に、美郷町の地域福祉向上を目的に、美郷町の住民自らが参画する団体、グループ等が行う地域福祉活動を助成いたします。

- 助成対象：美郷町で活動する民間団体・グループが行う事業。ただし、営利を目的とした活動等は除きます。
- 助成金額：助成限度額100,000円（財源総額：500,000円）人件費など団体の運営費は除く。
- 事業実施期間：平成27年3月31日までの活動
- 申請締切：平成26年3月31日（月）

詳しいことやお問合せは、社会福祉協議会（☎75-1345）へご連絡ください。

お知らせ

お問い合わせは、社協 ☎75-1345までお電話ください。

平成26年度 社協会費等にご協力をお願いします

美郷町社会福祉協議会では、皆様から拠出していただいています会費を貴重な財源として、誰もが安心して暮らせる地域社会の充実・向上を図るため、各種事業を推進しています。

新年度も次のとおり、お願いいたしますので、ご理解、ご協力よろしくをお願いいたします。

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 【社協会費】 6月実施 | 【共同募金】 10月実施 |
| ・一般会費 1,200円 | ・一般募金 800円 |
| ・賛助会費 3,000円 | ・歳末募金 500円 |
| ・団体会費 5,000円 | 【日本赤十字社】 5月実施 |
| ・特別会費 5,000円 | ・社 費 700円 |

成年後見制度等講演会を開催します。

認知症や知的障がい、精神障がいなどにより判断能力が十分でない方が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう支援する「成年後見制度」について、地域の皆様に理解を深めていただくことを目的に、「成年後見制度等講演会」を開催します。どなたでも受講いただけます。

- 日 時 3月26日(水) 13:30～
- 場 所 美郷町保健福祉センター 保健指導室
(美郷町社会福祉協議会)
- 講 演 はまだ市民総合法律事務所 本家 弁護士
- 受講無料。どなたでも受講できます。

※詳しくは小組回覧をご覧ください。

ユニバーサル交流会 参加者募集!

高齢者や障がい者の方だけでなく、関心のある方ならどなたでも自由に参加していただける交流会を開催します。

今回は、運動が得意でない方でも楽しくできるゲーム感覚の室内スポーツと、小物作り教室です。多くの皆様のご参加お待ちしております。

- 日 時 3月27日(木) 10:00～11:30
- 場 所 地域活動支援センター あおぞら
(邑智中学校下)
- 内 容 室内軽スポーツ・新聞紙プローチ作り など
- 参加無料。どなたでも参加できます。



困った時は、お電話下さい。

社協事業・介護保険・相談・苦情 … ☎75-1345
夜間・休日 … 080-2890-8683